

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

令和元年度病害虫発生予報第5号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 総合研究部 病害虫防除室 電 話 076-257-6911 (代表) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	---

病害虫発生予報第5号 (予報期間：8月上旬～8月下旬)

予報内容

水 稲

穂いもちの発生は**やや多**と予想される。出穂前後に降雨があると発生が拡大するので、この時期の防除は必ず実施する。

紋枯病の発生は**やや多**と予想される。防除を実施していない場合は、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。水田への侵入量が多いため、出穂後の防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。防除後も斑点米カメムシ類の水田侵入が確認される場合、さらに追加防除を行う。

ツマグロヨコバイの発生は**やや多**と予想される。今後の発生に留意する。

大 豆

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

カメムシ類の発生は**やや多**と予想される。幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

フタスジヒメハムシの発生は**やや多**と予想される。汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

果 樹

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため同一系統の薬剤は連用しない。発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

野菜・花き

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

シロイチモジヨトウの発生は**多**と予想される。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。

—気象予報—

1か月予報 (令和元年7月25日付け 新潟地方気象台)

予報期間 7月27日～8月26日

[確率予報]

気温	低い	20%	平年並	30%	高い	50%
降水量	少ない	50%	平年並	30%	多い	20%
日照時間	少ない	20%	平年並	30%	多い	50%

[概要]

・機関の前半は、太平洋高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。このため、向こう1か月の気温は高く、日照時間は多く、降水量は少ないでしょう。

・7月27日(土)～8月2日(金)

太平洋高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

・8月3日(土)～8月9日(金)

太平洋高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

・8月10日(土)～8月23日(金)

太平洋高気圧に覆われて、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。
 2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
 (±) は好適・不適に関与しない要因を示す

1 水稻の病害虫

穂いもち

発生時期	8月以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 葉いもちの現在の発生はやや多 (+) (2) 降水量は少ない (-) (3) 気温は高い (-) (4) 7月の感染好適日出現は多 (+)
防除上の注意事項	(1) 出穂前後に降雨があると発生が拡大するので、この時期の防除は必ず実施する。

紋枯病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は平年並 (±) (2) 茎数：並～やや多 (+) (3) 降水量は少ない (-) (4) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 防除を実施していないほ場では、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 本田への侵入虫数は多 (+) (2) 予察灯の誘殺数は並 (±) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 7月中に出穂した稲は、出穂7～10日後と14～17日後の2回防除を徹底する。8月以降に出穂した稲では、出穂7～10日後の防除を徹底する。 <u>防除後も斑点米カメムシ類の水田侵入が確認される場合は、さらに追加防除を行う。</u> (2) 高温乾燥時には水田への侵入が促進される。

セジロウンカ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生に留意する。

コブノメイガ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 成虫の飛び立ち数はやや少 (-) (2) 気温は高い (+)

- 防除上の注意事項 (1) 晩植や直播のは場等では集中産卵による被害の発生が懸念される。
(2) は場巡回に努め、発生を認めたら直ちに防除を実施する。

ツマグロヨコバイ

- 発生時期 連続発生
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 今後の発生に留意する。

2 大豆の病害虫

紫斑病

- 発生時期 感染時期は幼莢期
発生量 やや少
予報の根拠 (1) 前年の発生は少 (-)
(2) 降水量は少ない (-)
防除上の注意事項 (1) 幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

ハダニ類

- 発生時期 急増期は8月上旬以降
発生量 多
予報の根拠 (1) 調査は場は未確認 (±)
(2) 気温は高い (+)
(3) 降水量は少ない (+)
防除上の注意事項 (1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類

- 発生時期 連続発生
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 調査は場は未確認 (±)
(2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

カメムシ類

- 発生時期 連続発生
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 調査は場は未確認 (±)
(2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

フタスジヒメハムシ

- 発生時期 発生盛期は8月下旬以降
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 調査は場は未確認 (±)
(2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

3 果樹の病害虫

ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 降水量は少ない (－) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) ポリオキシシンおよびジカルボキシイミド剤は耐性菌が県内に広く分布しているため、散布回数をそれぞれ年1回にとどめる。

ナシ黒星病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は平年並 (±) (2) 降水量は少ない (－) (3) 気温は高い (－)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 降水量は少ない (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は平年並 (±) (2) 降水量は少ない (－) (2) 気温は高い (－)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

ハダニ類 (なし、りんご)

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量は少ない (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。 (2) 発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

4 野菜・花きの病害虫

疫病類

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 降水量は少ない (－)
防除上の注意事項	(1) 降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。 (2) ほ場の排水およびハウス内換気に努める。

うどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 降水量は少ない (+) (3) 気温は高い (－)
防除上の注意事項	(1) 過繁茂を避ける。 (2) 施設では過度の乾燥を避ける。

軟腐病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 降水量は少ない (－) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫防除を徹底する。

スイカつる枯病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 降水量は少ない (－) (3) 気温は高い (－)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 降水量は少ない (－) (3) 気温は高い (－)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

ネギ黒斑病

発生時期	連続発生
------	------

発生量 やや少
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 降水量は少ない (－)
(3) 気温は高い (－)
防除上の注意事項 (1) 降雨前後の防除を徹底する。

ハダニ類

発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は高い (+)
(3) 降水量は少ない (+)
防除上の注意事項 (1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類

発生時期 連続発生
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

オオタバコガ

発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+)
(2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。

ハスモンヨトウ

発生時期 8月上旬以降
発生量 並
予報の根拠 (1) フェロモントラップ誘殺数はやや少 (－)
(2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。

シロイチモジヨトウ

発生時期 8月上旬以降
発生量 多
予報の根拠 (1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+)
(2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。